秋のお彼岸です

お彼岸は正式には『到彼岸（とうひがん）』と言います。先祖供養だけでなく、極楽浄土に至る我々の修養の期間でもあります。六波羅蜜（ろっぱらみつ）という六項目の修養のうちの一つである『布施（ふせ）』についてもう少し細かいお布施について説明いたしましょう。

無財の七施

布施とは見返りを求めないで、相手に喜びを与えることです。「お金をあげたから、自分には優しくしてくれるだろう。」これはお布施ではありません。お金や価値のあるものをもらえば、誰だって嬉しいものです。しかし、与えられる喜びはそうした金品だけには限りません。人の笑顔から安らぎをもらうことだってあります。人の呼びかけから勇気をもらうことだってあります。

七つの布施について説明します。

《眼施（がんせ）》
慈眼施ともいい、慈しみに満ちた優しいまなざしで相手を見ることです、温かい心は、自らの目を通して相手に伝わります。

《和顔悦色施（わげんえつじきせ）》
和眼施ともいいます。いつもなごやかで穏やかな顔つきで人に接することです。笑顔を顔に表しましょう。

《言慈施（ごんじせ）》
愛語施ともいいます。文字通り優しい言葉、思いやりのある態度で言葉をかけることです。

《身施（しんせ）》
捨身施ともいいます。自分の身体をつかって奉仕することです。ただ見ているだけでなく、自ら進んで行う気持ちが大切です。

《心施（しんせ）》
心慮施ともいいます。他人の為に心をくばり、心底から共に喜び共に悲しむことが出来ることです。相手の悩みを自分のことのように感じ取れる同感のことです。

《牀座施（しょうざせ）》
たとえば電車の中でお年寄りなどに喜んで席を譲る行為のことです。疲れた人をいたわる気持ち、手を差し伸べる具体的な行為のことです。

《房舎施（ぼうしゃせ）》
外で凍える人のために，風や、雨露をしのぐ場所を与えることです。たとえば、相手に雨がかからないように傘を差しかける行為のことです。

この夏に、お盆から始めた「うちわ de で支援！」

（東日本大震災支援、たくさんの方々からご協力頂きました。皆さんからお預かりした、支援金は皆さんの気持ちと一緒に、五月に伺った仮設住宅などに、なるべく希望に沿った物資にして、順次、送らせて頂いております。ご協力有難うございました！また、秋からも、気持ちだけは持ち続けて「何かやらねば！！」と思っております。これからもよろしくお願い致します。

鈴木裕子

四月から「法問寺のホームページ」が出来ました。浄土宗法問寺で検索してみてください